
かなでの誕生日

神咲零

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

かなでの誕生日

【Nコード】

N0413T

【作者名】

神咲零

【あらすじ】

誕生日が楽しみで眠れないかなで、

プレゼントの用意に時間がかかり眠れない音無、

音無はかなでに最高の誕生日をプレゼントでき

るのか??

3部作の予定です

眠れない夜 かなでの場合（前書き）

—はじめまして神埼咲 かんざき 零 れいです

初投稿なのでお見苦しいところはありますが見てくれると嬉しいです。

あらずじに書いたとおり3部作にしようと思っています

かなで⇒音無⇒パティー編の順となっています

では本編どうぞ

眠れない夜 かなでの場合

「今日は なんだか眠れない」

ここは女子寮、かなでの部屋

もう時計は午前1時をまわっている。

なぜかなでが眠れないかと言うと、明日はかなでの誕生日なのだからそれを知ったユリが

「じゃあ明日は隊員総出でお祝いしなくちゃ」
って言われたのが朝の10時ごろだった

「明日が楽しみで眠れないなんて子供みたいね」

それに楽しみなのはパーティーだけじゃない

「結弦^{ゆずる}なにをプレゼントしてくれるんだろ」

それはユリに会ってから少し後のこと

かなでが食堂で麻婆豆腐を食べているとき

「かなでは何か欲しい物とかあるのか」

突然結弦がそんなことをきいてきた

「どうして？」

大体分かっていたがつい聞き返してしまった

「明日誕生日だってユリから聞いて何かプレゼントしたいなと思って」

「結弦がくれるものならなんだっていい」

「俺に全部丸投げかよ!! うーんなにがいいかなあ」
と考えること約5分

急に結弦が何かひらめいたような顔をして

「ま 明日を楽しみにしていくれよ!」

とだけいい早足で食堂の出口に向かっていった

—— 戻って現在 ——

「楽しみしてとは言われたけど楽しみにしすぎて寝坊しては本末転倒ね」

現在時刻は1時半

このままでは明日のパーティーに支障をきたしかねない

幸い明日のパーティーはお昼からだ

かなでは目を閉じる、すると思ったより簡単に睡魔が襲ってきた。色々考えたから疲れたのだろう

「明日が最高の1日でありますように」
そう言ってかなでは眠りについた

眠れない夜 かなでの場合（後書き）

最後まで見てくれてありがとうございます
次もみてくれれば感謝です！！

音無のプレゼント（前書き）

続編遅くなりました。

ちゃんとできてるかわかりませんがみてってください

音無のプレゼント

食堂を出た後、結弦は急いでユリのいる校長室へ向かった

「ユリ、戦線の制服の作り方を教えてくれないか？」

「どうしたの急に？もしかしてかなでちゃんにプレゼントするんでしょ」

ユリには見透かされていたようだ。

「そうだよ」

「ならはじめから予備くらいあるわよ？」

「自分で作りたいんだ頼めるか？」

「そうゆう話ならOKよ」

とユリは快くOKしてくれた。

場所は変わってグラウンド

「物は土から作るのよ」

「聞いてはいたが本当に土から作るんだな」

作るところをみるのは初めてだ

「まず服形を想像するのよ」

と言われたのでユリのきている服をそのまま頭に描いてみる

「そうよその調子で次は色よ」

その調子で色々やっていくと制服もどきを完成させた。

「これじゃだめねワツペンの文字がおかしいし腕の長さが左右そろってない」

やら色々ダメだしをされもう一度やり直してみる

「微調整は私が修正してあげるから」

とゆうことで音無はユリに手伝ってもらいながら征服を完成させた。

「疲れたゝってもう9時じゃねえか」

4時間近く作っていたことになる

「ありがとな ユリがいなかったら今日中に終わらなかったよ」

「お礼なんていいわよ かなでちゃんのためなんですよ」

「なんか照れくさいな」

二人で笑いあう

「明日昼からかなでちゃんのパーティーだから遅れずに食堂にきてね」

「分かった」

といってユリは帰っていった

「俺もそろそろ帰るか」

寮に帰ると松下5段が飯を食べていたので一緒に食べることにした

「音無も肉うどん食べるか？」

「そうだな今日は肉うどん食べようかな」

ということで肉うどんを食べることにした

「今日、音無はなにをしていたんだ？」

「かなでのプレゼントを作っていたんだよ」

「音無も大変だな」

「そうでもないさやって見ると結構楽しかったぞ」

「そうか」

とゆって松下5段が席をたった

どうやらうどんを食べ終えたようだ

「それ何杯目なんだ？」

と聞いてみると

「8杯だ」

とゆって松下5段はかつこよく自分の部屋に帰って言った

「そろそろ俺も帰るか」

といって音無は部屋に帰って寝ることにした

そのころかなでが眠れずに色々考えているとも知らず音無はぐっすり眠るのであった

音無のプレゼント（後書き）

次で最後です

読みにくかったと思いますが最後まで見てください

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0413t/>

かなでの誕生日

2011年10月9日02時25分発行